

コース No.

4

# 高度実践型 経営力強化コース

**7月開講** 6か月（全13日）コース

2023年

7月11日 **火** ~ 12月8日 **金**

- 対象者 / 経営者、経営幹部
- 受講料 / 153,000円(教材費・税込)
- 定員 / 20名

ケースメソッドで磨く

経営者の意思決定力

# Concept 研修のねらい

**感** 染症の世界的な拡大を契機として、企業も個人も従来の生活様式からテレワーク等に代表される非接触型の新しい様式への移行を余儀なくされており、こうした状況が、5G、AI、IoT、ロボットなど、デジタル化の急激な進展に拍車をかけています。このような急激な環境変化に迅速に適応し、自社ビジネスの変革へ取り組んでいくために、経営の中核を担う人材には、論理的な思考に加え、データに基づいた思考や新事業を産み出す柔軟な発想法、組織一体で実行していく力など、経営課題に対峙する多面的な力の向上がより一層求められます。

本研修では、企業経営の現場で直面する経営課題や意思決定が求められる場面を再現したケース研究を通じて、経営分析手法やフレームワークを活用しながら、複雑に絡み合う要素を紐解く問題解決力と最適な意思決定ができる経営力を身につけます。

## コース概要

- 日程 / 全 13 日 (85 時間)  
2023 年 7 月 11 日 (火)  
～ 12 月 8 日 (金)
- 対象者 / 経営者 経営幹部
- 受講料 / 153,000 円 (教材費・税込)
- 定員 / 20 名



# Feature 研修の特徴

- ◆ 経営の現場を疑似体験するケースメソッドを採用
- ◆ 様々な経営課題を多角的に捉える総合コース
- ◆ 経営者に求められる 7 つのスキルを習得



合意形成力



洞察力



意思決定力



思考力



## 7つのスキル

戦略立案力



分析力



統合力



# Curriculum カリキュラム

本コースではケースメソッドを採用しています。基本的に①ケースガイダンス → ②個人ワーク → ③グループ討議 → ④クラス討議の流れで進めていきます。

コース後半では、具体的なケースを使用したグループ総合演習に取り組みます。総合演習を通して、組織一体で実行する力を身につけます。



## ① ケースガイダンス

ケースを読み解く上で必要な事前知識の補足を行います。



## ② 個人ワーク

ケースを個人で熟読して設問に対する自分なりの提案を検討します。



## ③ グループ討議

個人ワークの検討結果を持ち寄り、グループで討議し、クラス討議に向けて各自の意見を整理します。



## ④ クラス討議

クラス討議で各自の意見を討議します。討議後に学びのポイントのレクチャーを受け、最後に学びの振り返りをします。

## 1st Term 事業環境／会計情報の活用

高度な経営課題への対応が求められる経営陣には、様々な能力が求められます。本研修での到達目標を明らかにした上で、経営者・経営幹部に求められる能力や役割を学びます。また、本研修で採用するケースメソッドの進め方も解説します。

7/11 火	9:15~9:30	• オリエンテーション
	9:30~17:30	• ガイダンス（ケースメソッドの進め方） • 事業環境／事業の成功要因 ◆ ケース＜エムケイ株式会社＞
7/12 水	9:40~17:40	• イノベーション／新事業への挑戦 ◆ ケース＜カフェワンドーストーブ＞
7/13 木	9:40~17:40	• 会計情報の活用 ◆ ケース＜あるガソリンスタンドの課題＞



## 2nd Term 新事業展開

環境変化に対応し新事業展開を検討する必要性が今後ますます高まると考えられます。

新事業展開、ビジネスモデルの構築に際して重要となるフレームワークや発想法、意思決定プロセス、プロジェクトの進め方等について、ケース研究を通じて学びます。

8/21 月	9:40~16:40	• 新事業展開 ◆ ケース＜株式会社ぐるなび＞ ＜IDEO＞
8/22 火	9:40~16:40	◆ ケース＜株式会社大洋発條製作所＞



## 3rd Term 事業継続／経営基盤の強化／人材マネジメント

限られた経営資源と制約条件の中で課題を解決するためには、事業の成功要因を分析し、経営上の施策と結びつけることが重要です。ケース研究を通じて、人材に配慮して効果的に施策を実施するプロセスを組み立てる方法を学びます。

9/11

月

9:40~16:40

### ●事業継続

◆ ケース<検討中>

9/12

火

9:40~16:40

### ●経営基盤の強化／人材マネジメント

◆ ケース<TESSEIの苦境>



## 4th Term 総合演習①

大きな環境変化に対し、経営者は時として、重要な経営判断を迫られる場面に直面します。ケース研究を通じて、経営判断に必要な意思決定力と、実行段階で必要な課題抽出・解決力を実践的に高めます。

10/17

火

9:40~17:40

### ●グループ総合演習 1

環境変化と組織のレジリエンス

◆ ケース<玉田工業の事業展開の軌跡>  
<国難を救う！>

不可能を可能にした企業の軌跡>

10/18

水

9:40~17:40



## 5th Term 総合演習②

社会・経済のデジタル化が急速に進展する現在、大きな環境変化に適応するため、業種や規模にかかわらずデジタル・トランスフォーメーション（DX）と呼ばれるイノベーション創出への取り組みが喫緊の課題となっています。こうしたデジタル化のなかでも、デジタル化の基盤となるデータ活用の捉え方と自社での応用方法について、AI（機械学習）を活用する新規事業をいち早く展開してきた企業のケースを通して考えます。また、グループ演習を通して、デジタル環境に適応するイノベーション実現の手法について学びます。

11/14

火

9:40~17:40

### ●グループ総合演習 2

デジタル化とイノベーション（1）

◆ ケース<トリトンの矛>

11/15

水

9:40~17:40

### ●グループ総合演習 2

デジタル化とイノベーション（1）

◆ ケース<企業のデジタル化に関するグループワーク>



## 6th Term 総合演習②

IT化、DX化を積極的に推進し、新しい事業を起業したケースの討議と、インターバル期間中にグループで検討したアイデアの共有とフィードバックを通じて、自社の新たな事業創出の可能性について検討を深めます。また、多くのグループ演習を通じて、チームビルディング力、組織一体で実行する力も培います。

12/7

木

9:40~16:40

### ●グループ総合演習 2

デジタル化とイノベーション（2）

◆ ケース<株式会社 FUKUDA>

12/8

金

9:40~16:40

### ●グループ総合演習 2

デジタル化とイノベーション（2）



\*各回のインターバルに、次回のケース教材の読み込みと自身の見解をまとめる課題が出ます。

\*カリキュラムの内容は都合により変更になる場合があります。変更のお知らせ・内容は当校のホームページでご案内します。

# Instructor 講師陣



## 竹内 伸一 たけうち しんいち 名古屋商科大学大学院 マネジメント研究科 教授

1988年早稲田大学教育学部卒業。マツダ株式会社を経て、2004年慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了、修士(経営学)。2011年慶應義塾大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学、2015年広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了、博士(教育学)。2004年筑波大学大学研究センター客員研究員、2006年慶應義塾大学大学院経営管理研究科特別研究助手、2007年特別研究講師、2011年特任准教授。2016年徳島文理大学人間生活学部教授。2018年4月より現職。



## 村上 敏也 むらかみ としや 金沢工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 教授

1997年慶應義塾大学環境情報学部卒業。学生時代より複数のITベンチャーにて奔走し、技術担当役員などを経て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了(MBA)、博士(経営学)。東京工科大学・多摩大学・立教大学等での非常勤講師の後、県立広島大学大学院経営管理研究科准教授を経て2018年4月より現職。認定ケースメソッド・インストラクター(慶應ビジネススクール・ケースメソッド授業法研究普及室)。広島県「チームイノベーション道場」教育プログラム開発実証委員。慶應義塾大学ビジネススクール 非常勤講師。



## 黒岩 健一郎 くろいわ けんいちろう 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科 教授

1990年早稲田大学理工学部建築学科卒業。住友商事株式会社を経て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了。修士(経営学)。同大学院後期博士課程単位取得退学。博士(経営学)。2003年武蔵大学経済学部専任講師、准教授、教授を経て2014年より現職。専門はマーケティング論。認定ケースメソッド・インストラクター(慶應ビジネススクール・ケースメソッド授業法研究普及室)。主著に「ケースメソッドの教科書 これさえ読めば授業・研修ができる」(2022年、碩学舎)「サービス・マーケティング コンサル会社のプロジェクト・ファイルから学ぶ」(2021年、有斐閣)など。



## 丸尾 聡 まるお あきら 丸尾経営教育研究室 代表

東京藝術大学卒業、東京理科大学大学院修士課程修了。事業理念をデザインする会社を起業後、株式会社日本総合研究所の立上げに参画。顧客と協働して、事業づくりと人づくりを推進する「合併事業設立型経営コンサルティング」モデルを構築。さらに、合併企業を株式上場まで牽引。他方で中山間地域において、異業種交流の成果を事業化。駒澤大学、上智大学大学院などの講師として、学生のアイデアを事業化。現在は、大企業の新規事業人材育成の研修講師として従事。事業構想大学院大学教授 兼 事業構想研究所副所長。慶應義塾大学ビジネススクール講師。



## 水野 由香里 みずの ゆかり 立命館大学大学院 経営管理研究科 教授

1998年聖心女子大学卒業。2000年一橋大学商学研究科修士課程修了、2005年同博士後期課程単位取得満期退学。2019年東北大学博士(経営学)。2005年独立行政法人中小企業基盤整備機構リサーチャー、2007年西武文理大学サービス経営学部専任講師、2013年准教授、2016年国士館大学経営学部准教授、2018年教授、2021年4月より現職。代表的な著書に『小規模企業の特性を活かすイノベーションのマネジメント』(2015年、碩学舎、2016年度「中小企業研究奨励賞」受賞)、『戦略は「組織の強さ」に従う』(2018年、中央経済社)、『レジリエンスと経営戦略』(2019年、白桃書房)、『エビデンスから考えるマネジメント入門』(共著、2022年、中央経済社)、『ケースメソッドの教科書』(共著、2022年、碩学ビジネス双書)がある。

# Voice of Customer 受講者の声

## 1st Term

- ・ケースメソッドというとても新鮮な討議方式と新しいセミナーメンバーに対し楽しみと期待しありません。少しなまってしまった頭をこれからフル回転していきます。
- ・自分の考え方のクセや落としやすい考え方を、他の参加者の意見を聞きながら振り返ることができました。モヤモヤを残して頂けるから帰り道や部屋でも色々と考え続けることができたのが新鮮でした。
- ・講義内容、課題自体は難解だったが、自分たちでディスカッションの中で考え発表すること、他の班の意見を聞くことで、気づきや学びがあったので、非常に充実した内容だった。
- ・数字を深ぼりすることで、最初マイナスに見えていたものが実は企業の強みだったことがわかったり面白く学べた。

## 2nd Term

- ・各ケースの区切り毎のまとめや参考資料があることで、理解が深まり解説にあることで、ハラ落ちしやすくてとても参考になった。
- ・新規事業の展開について、具体的にイメージでき、非常に有用な講義でした。"自分ごと"として捉えることを常に意識させられたので、その結果自社の展開、意思決定に大きな影響を与え得るかなと思いました。
- ・現在私が直面している課題なのでとても参考になりました。頭の中がしっかりとまとまったわけではないので、全て「さしあたり」「とりあえず」やってみる、言ってみる、考えてみる、を実践します。

## 3rd Term

- ・生徒の発言に Challenge して頂けることで、思考が深まりました。
- ・討議結果に対して、コメントに対しての問いが、すごく参考になり、社内でも実践しようと思いました。
- ・理解や気づきの組立がすごくうまくて、終わってみるとなるほどと思えました。

## 4th Term

- ・B/S に注目して財務分析をする意義、意欲が湧き助かりました。ケースを自分事として捉える意識が強くなり非常に有意義でした。
- ・猛烈に楽しい1日でした。その一言です。
- ・たくさんの経営に対する本情報を頂きました。
- ・当社も外部環境が大きく変わるタイミングに直面しているため、新しいことへの挑戦がはじまっており、どうやって一体感が持てるか参考になった。

## 5th Term

- ・デジタル技術に対する活用難しいと感じる。経験を積むことがこれから必要と思いました。
- ・自社に持ち込める部分もわずかに見えてきたので、そこをキッカケに社内に展開していければと思います。
- ・最後のパートのレクチャーでなぜ解法的にDXの考え方、導入に対する姿勢とマスト要件についてクリアになりました。

## 6th Term

- ・「計画された偶然性」は大変勉強になり早速本社で朝礼にて話をして共有しました。リーカンキャンパスを書く事によりビジョンを具体的に出来る事は勉強になり今後活用したいと思います。
- ・とても楽しく身になる内容を学べました。今後自社に持ち帰ってからの本番かと思っていますので、ロードマップ作って頑張ります。
- ・わかりやすい授業で驚いた、説明する方法についても勉強になった。
- ・大変勇気付けられる学びの機会でした。ありがとうございました。



## 申込方法

中小企業者の方であればどなたでも受講できます。  
インターネットにてお申込ください。

- ※中小企業の定義はHP等でご確認いただくか、当校までお問合せください。  
土業・経営コンサルタント等の方はお断りさせていただく場合がございます。
- ※応募者多数のためキャンセル待ちとなる場合がございますので、お早めにお申し込みください。  
応募状況は、HPでもご確認いただけます。



## お申込み・お問い合わせ先

### 中小企業大学校東京校 企業研修課

〒207-8515 東京都東大和市桜が丘 2-137-5

URL <https://www.smrj.go.jp/institute/tokyo> ※インターネットからお申し込みができます。

TEL 042-565-1207 E-mail to-kenshu@smrj.go.jp



## 受講決定と受講料の納入

受入決定後、開講日の約1.5ヶ月前頃から貴社の連絡担当者様あてに「受講決定通知兼振込依頼書」等を送付いたします。受講料は指定日までにお振り込みください。(恐れ入りますが、振込手数料は貴社でご負担ください)。  
 ※納入後の受講料は、キャンセルされた場合にも一部または全額を申し受けますので予めご了承ください。  
 ※より多くの企業の皆様が受講できるよう、原則として1コースあたり1社2名様までのお申し込みといたします(2名を超える場合はキャンセル待ち扱いといたします)。

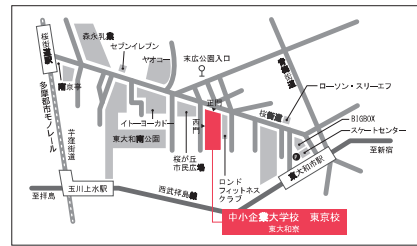


## 宿泊施設(東大和寮)

寮費:2,700円/1泊(税込・朝食サービス)※寮費は変更になる場合があります。  
 宿泊施設を併設しております。  
 また、校内に食堂を併設しています。



## 中小企業大学校東京校 交通アクセス



JR山手線 高田馬場駅から西武拝島線拝島方面行き 東大和市駅下車 徒歩10分

JR中央線 国分寺駅から西武国分寺線小川駅乗り換え、西武拝島線拝島方面行き

東大和市駅下車 徒歩10分

JR中央線 立川駅から多摩都市モノレール 玉川上水駅下車 徒歩15分

多摩都市モノレール 桜街道駅下車 徒歩15分

※西武線をご利用される場合、拝島線直通の急行または準急のご利用が便利です。

※受講生用の駐車・駐輪設備がございません。受講にあたっては電車・バス等の公共交通機関でお越しください。

# インターネットによるお申込み方法

## 1 ホームページにアクセス

受講したい研修が決まったら、中小企業大学校のホームページにアクセス。

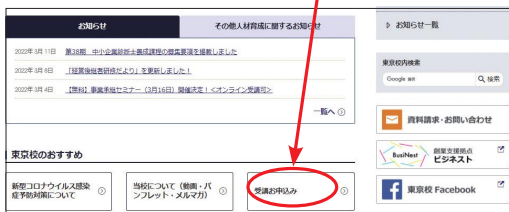
**【東京校ホームページ】**

<https://www.smrj.go.jp/institute/tokyo/index.html>

中小企業大学校 東京校   ※PCでの申込みが便利です。

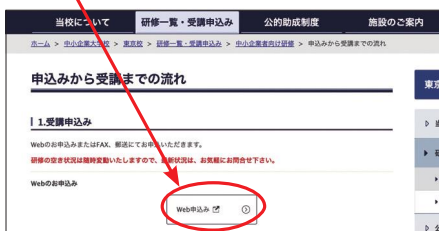
## 2 受講申込み

東京校トップページ下部「受講お申込み」をクリックします。



## 3 Web申込み

「Web申込み」をクリック。 ※研修詳細ページからも申込みできます。



ご希望の研修コースをプルダウンしてお選びください。

以下必要事項をご記入ください。



## 4 確認画面 ▶ 申込み実行

申し込み画面に必要な事項を入力後「確認画面へ」をクリックします。



内容が正しければ、「申込み実行」をクリック。



申込完了後東京校から確認メールが送付されます。

※確認メールが届かない場合や確認メールの内容が異なる場合は、お手数ですが東京校までご連絡ください。

次回からのお申込みが簡単に!

## Web企業IDを登録がおすすめ!

Web企業IDを登録することで、次回からの申込みがより簡単に!ぜひ、この機会にご登録ください。

### 登録方法

受講申込みのページ「事務連絡担当者」欄にある「Web企業IDの登録」で「可」を選択してください。



- ・初回お申込み完了後、ご登録のe-mailアドレス宛に「お申込み受付の確認メール」が送信されます。
- ・内容に従い、必ずWeb企業IDのパスワード設定をお願いします。
- ・次回以降は「Web企業IDを登録」欄にIDと設定したパスワードを入力しログインしていただくと企業情報などが自動で入力されるほか、過去の申込履歴をご覧いただけます。

コース名	高度実践型経営力強化コース			
研修のねらい	感染症の世界的な拡大を契機として、企業も個人も従来の生活様式からテレワーク等に代表される非接触型の新しい様式への移行を余儀なくされており、こうした状況が、5G、AI、IoT、ロボットなど、デジタル化の急激な進展に拍車をかけています。このような急激な環境変化に迅速に適応し、自社ビジネスの変革へ取り組んでいくために、経営の中核を担う人材には、論理的な思考に加え、データに基づいた思考や新事業を産み出す柔軟な発想法、組織一体で実行していく力など、経営課題に対峙する多面的な力の向上がより一層求められます。 本研修では、企業経営の現場で直面する経営課題や意思決定が求められる場面を再現したケース研究を通じて、経営分析手法やフレームワークを活用しながら、複雑に絡み合う要素を紐解く問題解決力と最適な意思決定ができる経営力を身につけます。			
研修の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経営の現場を疑似体験するケースメソッドによる研修です。</li> <li>■ ケースを通じて、自社の経営を見つめ直すことができます。</li> <li>■ 総合演習を通じて、デジタル化等の環境変化への対応、組織のレジリエンスの向上を実現するための考え方や判断力を涵養します。</li> </ul>			
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースメソッドは、以下の流れで進めます。詳細はガイダンスで解説します。</li> <li>① ケースガイダンス・・・ケースを読み解く上で必要な事前知識の補足を行います。</li> <li>② 個人ワーク・・・ケースを個人で熟読して設問に対する自分なりの提案を検討します。</li> <li>③ グループ討議・・・個人ワークの検討結果を持ち寄り、グループで討議を行い、自分の意見を整理します。</li> <li>④ クラス討議・・・クラス全体で各自の意見を討議します。討議後に学びのポイントの解説を行います。</li> <li>・各回のインターバルに次回のケース教材の読み込みと自身の見解をまとめる課題が出ます。</li> </ul>			
研修期間	2023年7月11日（火）～2023年12月8日（金）〈全13日間〉 第1回2023年7月11日（火）～7月13日（木） 第2回2023年8月21日（月）～8月22日（火） 第3回2023年9月11日（月）～9月12日（火） 第4回2023年10月17日（火）～10月18日（水） 第5回2023年11月14日（火）～11月15日（水） 第6回2023年12月7日（木）～12月8日（金）			
受講対象者	経営者・経営幹部 ・経営の意思決定力を磨きたい方 ・他社の事例を自社経営の参考にしたいたい方 ・ディスカッションで自身の経営スキルを高めたい方	定員	20名	受講料 153,000円
研修会場	中小企業大学校 東京校			

月日	時間	科目	内容	講師
7/11 (火)	9時15分～9時30分	オリエンテーション		中小企業大学校職員
	9時30分～11時00分	ガイダンス ケースメソッドの進め方	<p>高度な経営課題への対応が求められる経営陣には、様々な能力が求められます。本研修での到達目標を明らかにした上で、経営者・経営幹部に求められる能力や役割を学びます。また、本研修で採用するケースメソッドの進め方を解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の目的と到達目標</li> <li>・経営者・経営幹部に求められる能力</li> <li>・ケースメソッド授業の心得</li> </ul>	竹内 伸一 名古屋商科大学大学院 マネジメント研究科 教授
	11時00分～17時30分 (昼休 12時30分～ 13時30分)	事業環境 ／事業の成功要因	<p>経営者として押さえておきたい経営戦略策定に必要な視点や基本的なモデルを理解した上で、ケースを用いた演習を通して、実践的に学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の成長要因</li> <li>・サービス・プロフィット・チェーン</li> <li>・ケース研究「企業の成長要因分析とサービス・マーケティングの本質」</li> </ul>	
7/12 (水)	9時40分～17時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)	イノベーション ／新事業への挑戦	<p>本研修の個々のケースでのねらいと総合演習の進め方を解説します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各チームごとのケースと総合演習の内容について</li> <li>・ケース教材を通して何をどのように学ぶべきか</li> </ul> <p>事業環境の変化、新規事業への果敢な挑戦と蹉跌。成長の機会に直面する企業経営者のケースを題材に、イノベーションに必要な要件、企業が成長し続けるための具体的な施策と優先順位について、個人、グループ、そしてクラス全体での討議により多角的に考えます。</p>	
7/13 (木)	9時40分～17時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)	会計情報の活用	<p>ビジネスにおいては、「数字で物事を捉える」、「数字を創って、数字で考える」ことが重要になります。数字を示せば、考えの根拠を共有でき、新しいデータで意思決定を改善できるようになります。ケース研究を通じて、「意思決定に会計情報を活用する手法」について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定性・定量データの活用</li> <li>・貸借対照表/損益計算書等の基礎的な理解</li> <li>・比例縮尺財務諸表ワークシートの作成口</li> </ul>	

インターバル課題①「ケース教材の読み込み」 次回のケース教材を各自で熟読し、問いに対する見解や提案を検討していただきます。				
8/21 (月)	9時40分～16時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)	新事業展開	環境変化に対応し新事業展開を検討する必要性が今後ますます高まると考えられます。新事業展開、ビジネスモデルの構築に際して重要となるフレームワークや発想法、意思決定プロセス、プロジェクトの進め方等について、ケース研究を通じて学びます。	黒岩 健一郎 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科 教授
8/22 (火)	9時40分～16時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなビジネスモデルの構築</li> <li>・イノベーションを生み出す方法とマインドセット（デザイン思考）</li> <li>・新事業展開の意思決定とプロジェクト管理</li> </ul>	
インターバル課題②「ケース教材の読み込み」 次回のケース教材を各自で熟読し、問いに対する見解や提案を検討していただきます。				
9/11 (月)	9時40分～16時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)	事業継続・事業承継	<p>実際に、事業を引き継ぎ、次々と降りかかる想定外の苦難に対応しながら、事業を再建し、「次世代へのバトンタッチ」を考えておられる、経営者の体験談をケースで学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倒産寸前からの再生の成功要因-経営者の学び-</li> <li>・経営者個人の体験をいかに次の世代へ引き継いでいくのか、いかに組織的な学びに変えていくのか</li> <li>・経営者の「学び」とはどのようなものか</li> </ul>	丸尾 聡 丸尾経営教育研究室 代表
9/12 (火)	9時40分～16時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)	経営基盤の強化 ／人材マネジメント	<p>限られた経営資源と制約条件の中で課題を解決するためには、事業の成功要因を分析し、経営上の施策と結びつけることが重要です。ケース研究を通じて、人材に配慮して効果的に施策を実施するプロセスを組み立てる方法を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の成功要因（KSF）と経営上の施策</li> <li>・従業員のモチベーションと施策の実行プロセス</li> <li>・ケース研究 「問題山積みの3K職場が生まれ変わった組織変革」</li> </ul>	村上 敏也 (前掲)
インターバル課題③「ケース教材の読み込み」 次回のケース教材を各自で熟読し、問いに対する見解や提案を検討していただきます。				
10/17 (火)	9時40分～17時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)	グループ総合演習Ⅰ 環境変化と組織のレジリエンス	<p>大きな環境変化に対し、経営者は時として、重要な経営判断を迫られる場面に直面します。ケース研究を通じて、経営判断に必要な意思決定力と、実行段階で必要な課題抽出・解決力を実践的に高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ総合演習の進め方（ガイダンス）</li> </ul>	水野 由香里 立命館大学大学院 経営管理研究科 教授
10/18 (水)	9時40分～17時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)		<p>また、経営者には、組織をまとめ上げて難局を乗り切る危機対応力、経営の行く末を左右するプロジェクトを成功につなげるマネジメント力や意思決定力が求められます。プロジェクトを成功に導くために、組織のレジリエンスを高め、現場で活きる経営者の判断力や管理能力についてケース研究を通じて学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「戦略と組織」</li> <li>・「組織のレジリエンスを高める」</li> <li>・ケース研究「玉田工業の事業展開の軌跡」、「『国難を救う！』と不可能を可能にした企業の軌跡」</li> <li>・研修の振り返りとまとめ</li> </ul>	
インターバル課題④「ケース教材の読み込み（個人ワーク）」 次回のケース教材を各自で熟読し、問いに対する見解や提案を検討していただきます。				
11/14 (火)	9時40分～17時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)	グループ総合演習Ⅱ デジタル化とイノベーション (1)	<p>社会・経済のデジタル化が急速に進展する現在、大きな環境変化に適應するため、業種や規模にかかわらずデジタル・トランスフォーメーション（DX）と呼ばれるイノベーション創出への取り組みが喫緊の課題となっています。</p> <p>こうしたデジタル化のなかでも、デジタル化の基盤となるデータ活用の捉え方と自社での応用方法について、AI（機械学習）を活用する新規事業をいち早く展開できた企業のケースを通して考えます。また、グループ演習を通して、デジタル環境に適應するイノベーション実現の手法について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題：DXとは？ 自社でのDX適應アイデアは？</li> <li>・ケース研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI（機械学習）の活用事例</li> <li>・データ活用におけるDIVAモデル</li> <li>・データ分析の民主化</li> <li>・AIやデータ分析の自社活用アイデア</li> </ul> </li> </ul>	村上 敏也 (前掲)
11/15 (水)	9時40分～17時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)		<p>デジタル環境に適應するイノベーションのアイデアを可視化するため、新たなビジネスモデルを構築する手法であるリーンキャンパス等のフレームワークを用いて、受講者相互の討議によりブラッシュアップを図ります。最終回に向けてグループによるデジタル化に適應する事業アイデアについて検討をはじめます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI（人工知能）やデータ分析の自社活用アイデアの共有</li> <li>・リーンキャンパスによる顧客、課題、提供価値の整理</li> <li>・自社におけるデジタル化適應の事業アイデアの精緻化</li> <li>・事前課題で検討したDXにおけるアイデア共有</li> </ul>	



インターバル課題⑤「ケース教材の読み込み（個人ワーク）」

次回の演習に向け、■グループでの相互コンサル ・自社活用アイデアのブラッシュアップ（AI→DXに視野を広げる） リーンキャンパス（→社内ヒアリング）

12/7 (木)	9時40分～16時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)	グループ総合演習Ⅱ デジタル化とイノベーション (2)	AI（機械学習）を活用した新しい事業を起業したケースの討議と、グループで検討したアイデアの共有とフィードバックを通して、自社の新たな事業創出の可能性について検討を深めます。また、AI以外の多様なデジタル技術等にも発想を広げていきます。	村上 敏也 (前掲)
12/8 (金)	9時40分～16時40分 (昼休 12時40分～ 13時40分)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース研究                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIやデータ分析による新規事業への挑戦</li> <li>・学習する組織と実行する組織</li> <li>・新規事業立ち上げ時に検討すべき事項</li> </ul> </li> <li>・リーンキャンパスの共有                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・自社活用アイデアと社内フィードバック</li> <li>・プロトタイピング（最小稼働物：MVPによる仮説検証）</li> <li>・プロジェクトの選定（グループごとに各アイデアから1案を選択）</li> </ul> </li> </ul> <p>グループごとに選択したDX適応アイデアにもとづき、ビジネスモデル構築の演習に取り組み、検討した成果を研修の総まとめとして発表します。参加者相互のコンサルテーションにより、新規事業アイデアの評価手法についても考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化を反映した新たなビジネスモデルの構築                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーンキャンパスの作成</li> <li>・リーンキャンパスの相互コンサルテーション</li> </ul> </li> <li>・最終発表                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修全体の振り返りとまとめ</li> </ul> </li> </ul>	
	16時40分～16時50分	修了証書の授与		中小企業大学校職員

※カリキュラムは都合により変更する場合がありますので予めご了承ください。

講師紹介

**竹内 伸一（たけうち しんいち）名古屋商科大学大学院 マネジメント研究科 教授**

1988年早稲田大学教育学部卒業。マツダ株式会社を経て、2004年慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了、修士（経営学）。2011年慶應義塾大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学、2015年広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了、博士（教育学）。2004年筑波大学大学研究センター客員研究員、2006年慶應義塾大学大学院経営管理研究科特別研究助手、2007年特別研究講師、2011年特任准教授。2016年徳島文理大学人間生活学部教授。2018年4月より現職。

**村上 敏也（むらかみ としや）金沢工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 教授**

1997年慶應義塾大学環境情報学部卒業。学生時代より複数のITベンチャーにて奔走し、技術担当役員などを経て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了（MBA）、博士（経営学）。東京工科大学・多摩大学・立教大学等での非常勤講師の後、県立広島大学大学院経営管理研究科准教授を経て2018年4月より現職。認定ケースメソッド・インストラクター（慶應ビジネススクール・ケースメソッド授業法研究普及室）。広島県「チームイノベーション道場」教育プログラム開発実証委員。慶應義塾大学ビジネススクール 非常勤講師。

**黒岩 健一郎（くろいわ けんいちろう）青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科 教授**

1990年早稲田大学理工学部建築学科卒業。住友商事株式会社を経て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了。修士（経営学）。同大学院後期博士課程単位取得退学。博士（経営学）。2003年武蔵大学経済学部専任講師、准教授、教授を経て2014年より現職。専門はマーケティング論。認定ケースメソッド・インストラクター（慶應ビジネススクール・ケースメソッド授業法研究普及室）。主著に「ケースメソッドの教科書 これさえ読めば授業・研修ができる」（2022年、碩学舎）「サービス・マーケティング コンサル会社のプロジェクト・ファイルから学ぶ」（2021年、有斐閣）など。

**丸尾 聡（まるお あきら）丸尾経営教育研究室 代表**

東京藝術大学卒業、東京理科大学大学院修士課程修了。事業理念をデザインする会社を起業後、株式会社日本総合研究所の立上げに参画。顧客と協働して、事業づくりと人づくりを推進する「合併事業設立型経営コンサルティング」モデルを構築。さらに、合併企業を株式上場まで牽引。他方で中山間地域において、異業種交流の成果を事業化。駒澤大学、上智大学大学院などの講師として、学生のアイデアを事業化。現在は、大企業の新規事業人材育成の研修講師とし従事。事業構想大学院大学教授 兼 事業構想研究所副所長。慶應義塾大学ビジネススクール講師。

**水野 由香里（みずの ゆかり）立命館大学大学院 経営管理研究科 教授**

1998年聖心女子大学卒業。2000年一橋大学商学研究科修士課程修了、2005年同博士後期課程単位取得満期退学。2019年東北大学博士（経営学）。2005年独立行政法人中小企業基盤整備機構リサーチャー、2007年西武文理大学サービス経営学部専任講師、2013年准教授、2016年国士館大学経営学部准教授、2018年教授、2021年4月より現職。代表的な著書に『小規模企業の特性を活かすイノベーションのマネジメント』（2015年、碩学舎、2016年度「中小企業研究奨励賞」受賞）、『戦略は「組織の強さ」に従う』（2018年、中央経済社）、『レジリエンスと経営戦略』（2019年、白桃書房）、『エビデンスから考えるマネジメント入門』（共著、2022年、中央経済社）、『ケースメソッドの教科書』（共著、2022年、碩学ビジネス双書）がある。